昔の阿賀野川を知ろう！

■岡方地区に残る3ヵ所の河跡！

暴れ川だった阿賀野川の痕跡が北区に3ヵ所残っています。現在も唯一水面を保つ「十二潟」、今は水田に変わった森下の下前川原遺跡付近（38・117ページを参照）。

そして、太子堂～大久保～長戸呂と大迎の集落の間にある三日月形の低地帯です。現在は水田ですが、江戸時代の絵図には、ここに「長戸呂潟」と呼ばれた潟が描かれていました。十二潟より

も古い時期にできた三日月湖です。当時は用水として利用したり、漁も行っていたりしましたが、のちに水田に変わったようです。

江戸時代中頃まで、太子堂・大久保・長戸呂は新発田藩の支配で、大迎は沢海藩（後に幕府）の支配で、ここを境に支配者が異なっていました。「大迎」は、対岸の「お向かい」の村という意味から、名付けられた地名かもしれませんね。

■堤外地に行くと命が危ない！

夏場に堤外地（川と堤防の間）で耕作をしていた人に、小豆大の潰瘍ができ、高熱、全身の発疹が出て、死に至るという恐ろしい病気が続出しました。これは、ダニの一種「恙虫」の幼虫に刺されて起こる恙虫病です。県内では、信濃川、阿賀野川流域で夏期に発生する風土病と考えられていて、半数が命を落とすといわれるほど死亡率が高い病気でした。

1952（昭和27）年頃には治療法が確立され、死亡者はなくなりましたが、それ以前は、各地で呪術的な方法や神仏に頼ることが多く、阿賀野川両岸の約50ヵ所で恙虫退散祈願の祭祀「虫送り」が行われていました。北区では大迎、太子堂、三ツ屋、高森、森下、新崎、濁川、名目所に小さな祠があります。勧請した神仏の違いによって、天王様、権現様、毘沙門様、七面様などとよばれています。

三ツ屋では、もともとあった金比羅様の祠に、大正時代、虫除けの神様「天王様」も祭り、恙虫除けとして信仰されるようになった。現在も5月の第2日曜に虫送りが行われている。